

## 小学校社会科授業づくりにおける学術的連携

### — 教科内容研究と授業分析とに焦点づけて —

教育デザインコース 社会領域

石川拓実, 呉思錡, 陳亜静, 廣實瑞雪, 森谷亮太, ラキア・ケティヴァン, 李肖楠

#### 1. 本研究のねらい

学術的な知見と教科書の内容との関連性を解明し、社会科の授業づくりに求められる教科内容研究の要件を明らかにする。またそこで培われた知識やスキルを用いて、附属鎌倉小学校の授業づくりに参画し、授業実践に資する教科内容研究の要件について探求する。その際に抽出児童を設定した授業分析に取り組み、教科内容研究に着手する。また、附属鎌倉小学校との連携を通して、授業者の教材開発過程を教科内容研究と個の学び（授業分析）との視点から分析する。授業実践研究と大学の学問研究とが学術的にいかなる回路を形成しうるのか、すべきであるのか解明することを目的とする。

#### 2. 研究の方法

小学校社会科において「水産業とりわけ沿岸漁業の実態」の分析を以下の方法で行った。

##### (1)教科書分析・学術的研究・実践例分析

3つの班に分かれ、指導教官の指導のもと、次の①～③について協働研究と検討会を行い、附属学校の授業者にその成果を伝達した。

①教科書分析…学習指導要領の水産業に関する部分を整理し、各教科書で日本の水産業がどのように扱われているか比較・検討した。

②学術的研究…日本の沿岸漁業に関連する法律・制度、腰越周辺の漁業に、日本の漁業従事者の現状、漁業に携わる外国人労働者（外国人技能実習生制度を中心に）などについて検討した。

③実践例分析…水産業を扱った授業実践例が、子どもの実態、実践の具体、実践者の捉える課

題をどのように位置付け行われているのか分析した。

##### (2)授業観察

附属鎌倉小学校で、日本の水産業に関する授業を3回見学した。初回授業前に、各院生がどの児童を観察するか決め、以後、その抽出児童を継続的に観察し、変容を追った。

##### (3)検討会

授業記録を作成し、各院生が観察した抽出児童について、漁師の仕事や力仕事に関するジェンダー観、女性漁師にどこまで自分を関係付け、共感的理解をするかなど各視点の変容を検討し、その都度結果を授業者に報告した。

#### 3. 研究の成果

- ・水産業というテーマを様々な方向からアプローチすることができ、研究の質が高まった。
- ・院生による先行研究の検討を通して、授業者が指導する際の学術的知識の蓄積ができた。
- ・7人で協働して行ってきたため、視点が狭まることなく、多くの視点で取り組むことができた。教材研究の大切さについて改めて考えることができた。

#### 4. 考察

多忙な現場で働く授業者の手助けにはなったが連携が密にできないことがあり、求めている情報の把握ができないことがあった。

抽出児童の変容を追うことの困難さを感じた。より質の高い児童理解には、授業観察時1人の児童に2、3人の観察者の必要性を感じた。